

# 身に覚えのない疑い

洋の東西をとわず、時代を超えて存在する冤罪。  
その背景にはさまざまな要因があり、それぞれの社会の姿を映し出す。  
冤罪を晴らす手法もまた、各民族社会固有の文化として存在する。

ケニア中央高地ニヤンベネ地方の農村で調査を開始してから八年が経ったが、この間、まったく身に覚えのない疑いを突然かけられた人びとの苦境を垣間みることがあった。身に覚えがないのだからどうにかして身の潔白を証明しようと対処するケースもあり、場合によっては地域固有の対処法があることも学んだ。

その一方で、問答無用のまま容疑者とされたあげくに多大の苦痛を強いられた人もおり、それは耳をふさぎたくなるほど過酷で恐ろしかった。救いようのないほどに疲れきってしまった人を見たこともある。

## 誤認逮捕、不正、拷問、変死……

私が住み込み調査をしてきたアゼロ・ガイティ村に、武装強盗犯の容疑者として誤認逮捕され、過酷な囚人生活を強いられた若者がいる。あ



ニヤンベネ地方の裁判所の事務官

る日の夜間行動の偶然の一致により、犯人と誤認された可能性が高い。

強盗事件は二〇〇五年一〇月の夜に村内で起こった。被害者は、犯人グループのうち一名の顔をはっきり見たと証言したため、警察はその夜にその一名とたまたま一緒にいたこ

の若者を含めて三名を逮捕した。

結局のところ裁判所は証拠不十分として無罪を認め、若者は釈放されたが、彼は判決が出るまでの数カ月の間に苦痛に満ちた囚人生活を強いられた。警察による自宅捜索の段階で、自宅敷地内から本人には全く身に覚えのない被害者の所持品が極めて不自然な状態で発見され、犯行を裏付ける証拠とされた。

彼は一貫して無実を訴えてきた。私自身、この若者とは調査開始直後からつきあいがあつて彼の人物を知っていたので、彼がそのような犯罪に手をそめるはずがないと信じた。若者の無実を訴える村人三〇名ほどが警察署におしかけ、釈放を求めて

な手順をふむものだとこたえた。

生きた羊の胴体に刃物で傷口をつくり、血がしたたりおちるままに二人がかりで担ぎあげる。担ぎあげられた羊の真下を、乳幼児を抱えた少女が通り抜ける。すると、その乳幼児が回復する。

老女の説明は続く。自分の友人の孫（乳幼児）の具合がおかしいので、偶然そこにいた少女に協力を求めただけで、少女を呪うようなことは一切していないと。

## 義兄弟の唾液がしみこんだ 山羊肉を飲み込む

老女がいうところのキエンゲレは、確かにかつて使われていた治療法で、

乳幼児の先天菌（グワニ）の治療などとあわせて施されていたものだ。村の長老たちのなかには、その効果を認める者もいた。

しかし、少女もその父親もキエンゲレがなにかを理解できなかった。しかも、老女の息子の一人がかつて病死したさいに、死因を老女によって呪い殺されたのだとする噂がささやかれたことがあった。このことを想起した父親はますます疑いを強め、近隣住民も巻き込んで恐怖心は膨張した。村の長老たちは、老女に無罪宣誓させることにきめた。

村の長老たちの手引きにより、老女は誰も呪い殺そうとしないという宣誓し、彼女の義兄弟（マイシアロ）



長老裁判で証言の順番をまつ老女



山羊を連れてきた老女。この山羊の肉が宣誓に使われた

いしだ しんいちろう  
石田慎一郎  
首都大学東京都市教養学部准教授  
専門は法人類学。農村と裁判所での調査をもとにケニアの多元的法体制について研究してきた。最近、オルタナティブ・ジャスティスの比較研究に着手している。



デモンストレーションを執行したとも聞いている。

無罪確定後、彼から直接話を聞いた。取り調べ中の拷問、官憲の不正、囚人の変死など、想像を絶する容疑者・囚人待遇についての状況に、私は愕然とした。

## 古来の呪術的行為が 疑念を生む

二〇〇五年八月、村のある老女が、集団リンチのさなかに救出された。

が噛みくだいた一切れの山羊肉を飲みこんだ。

それには、義兄弟の唾液がしみこんでいる。ニヤンベネ地方では、義兄弟は相互に特別な力をもつ関係にあり、もし宣誓で嘘をつく、この唾液が嘘つき本人とその家族に、将来いつか恐ろしい災厄をもたらすと信じられている。これはいわゆる神判・試罪法で、詐欺や盗難の疑いや、言った言わないをめぐるトラブルへの対処法としても頻繁に利用されている。

## 冤罪の根底にあるもの

現場に身をおいて当事者から見聞きするたにおもいうが、身に覚えのない疑いはほんとうに恐ろしい。ケニアの農村で、これらの事例をふくめて、一方的な疑いに由来する暴力がむきだしのまま見えてしまったとおもうことがしばしばあった。

しかし、これは遠い調査地だけの話ではなさそう。最近、殺人事件や痴漢事件での冤罪を伝える国内報道に触れ、とつぜん疑いをかけられて自由が奪われること、逆に特定の人を疑ってしまうことの残酷さをあらためて感じた。

ぬれぎぬ・冤罪は、知識や情報の欠落や思い違いだけに由来するのか。それ以外の何かにもよるのか。簡単な問いではないが考えていきたい。